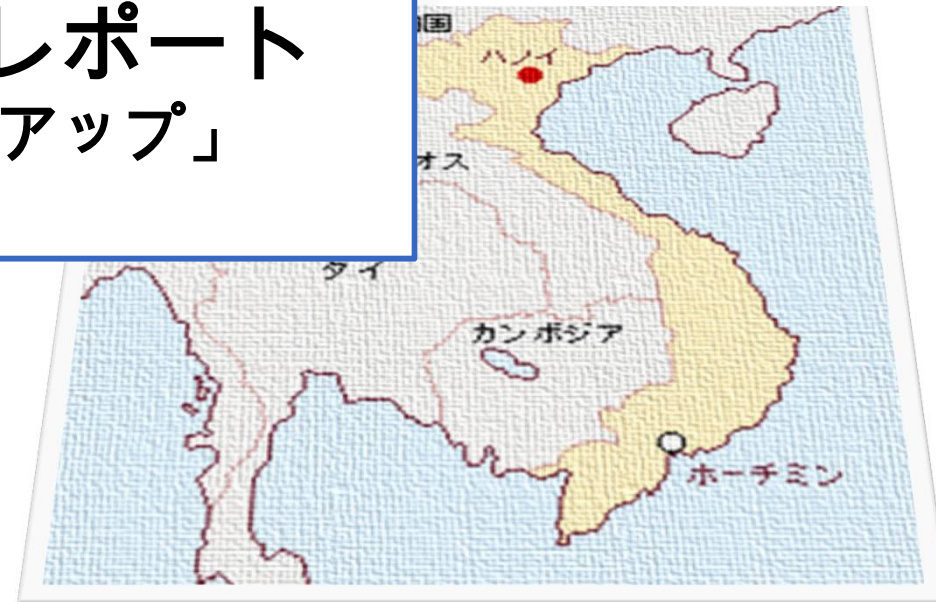


# ベトナム現地調査レポート 「帰国研修員のフォローアップ」



ベトナム社会主義共和国

Socialist Republic of Viet Nam



調査期間

2013年3月27日～4月5日

出張者

副理事長 上野正勝

コースリーダー 宮本 正

H25年4月23日

## 1. ベトナム国

ロゴ



2013年は日本とベトナムの外交関係樹立40周年に当たる。



- 1) 主要産業
  - 農林水産業、鉱業、軽工業
- 2) GDP (2011年)
  - 約1,227億米ドル
- 3) 一人当たりGDP (2011年暫定値)
  - 1,374米ドル
- 4) 経済成長率 (2011年、IMF)
  - 5.9%
- 5) 物価上昇率 (2011年)
  - 18.6%
- 6) 通貨
  - ドン (Dong)
- 7) 為替レート
  - 1ドル = 20.800ドン (2011年12月)
- 8) 経済概況
 

2000年～2010年の平均経済成長率は7.26%と高成長を達成。2010年は当初の目標である6.5%を上回り、6.8%成長を達成した。2011年は5.9%。

外務省H. Pより

## 2. 調査目的

### 2-1. 背景

本研修の基礎「裾野産業育成project」が来年度で終結。  
本研修コースの終了後は現地で「実学」を教え、普及させる体制作りが必須。



- ①現地での普及体制をどのように作るか、可能性や実情は？
- ②新たな研修項目は必要ないか？（研修結果は活きているか？）
- ③受け入れ研修生の選抜はどうなるのか？



**現地訪問し実情を調査。**

### 3. 訪問日程と訪問企業

#### 3-1. 訪問日程

- ①ホーチミン：3月28日～3月30日
- ②ハノイ：4月01日～4月04日

#### 3-2. 訪問先

##### ①ホーチミン

- ・ 昨年の研修生の5工場
- ・ シアボランテアの事務所
- ・ 他

##### ②ハノイ

- ・ 一昨年の訪問2企業
- ・ 昨年の研修生の5工場
- ・ JICAハノイ；シアボランテアの事務所
- ・ 他



## 4. 訪問結果

### 4-1. 定着の体制

- 学校、品質協会、品質センター、職業訓練校、ハトナム日本人材センターなどがあるが、理論・体系教育であり「実学」の教育がなされていない。一方で、実践的な実学教育の必要性は認識されている。

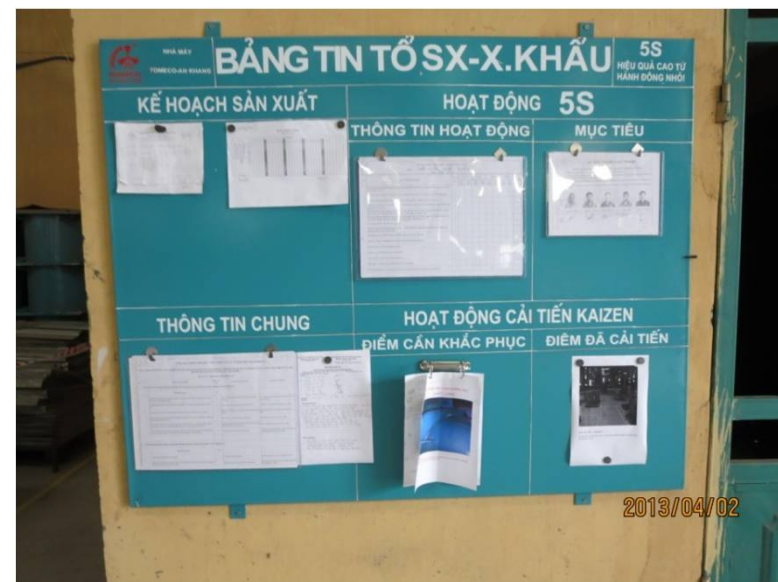


訪問企業での会議風景



## 4-2.新たな研修の必要性

- 訪問10企業ともに、研修成果を「5S」からスタートする形態で活かしている。職場規律の遵守も進み、品質改善や新規顧客開拓へ進んでいる。今までの研修生は主として幹部クラスであったが、**今後は有償でも良いから部下に専門的な教育をやって貰いたい、との意見が多く出た。**



訪問企業で5S運動や各種掲示版が多く見受けられた

### 4-3. 研修員の選抜

- 来年まではシエララティヤが駐在するので、指導企業の中から日本での研修レベルに達する人物(帰国後に積極的な普及活動を行う人)で、その資質を有する研修員を派遣する。



製造工場内の風景

## 5. 所感

### 5-1. 発展するベトナムだが環境は厳しい。

2年前にはハノイでも停電にあったが、今回尋ねると殆どなくなったとのこと。高層ビルが林立するようになっているし、交通網も整備されつつある。（ハイフォン港の整備も進行。鉄道が未整備）

年利15~18% & 2年返済が一般的な融資条件。  
製造業20万社だが、創業10年、従業員100人、年商1.5~2億円クラスでほぼ同じ環境で切磋琢磨している。



林立する高層ビル



ハノイ~ホーチミン間の列車



## 5-2.活躍中の帰国研修員は的確で自主性がある

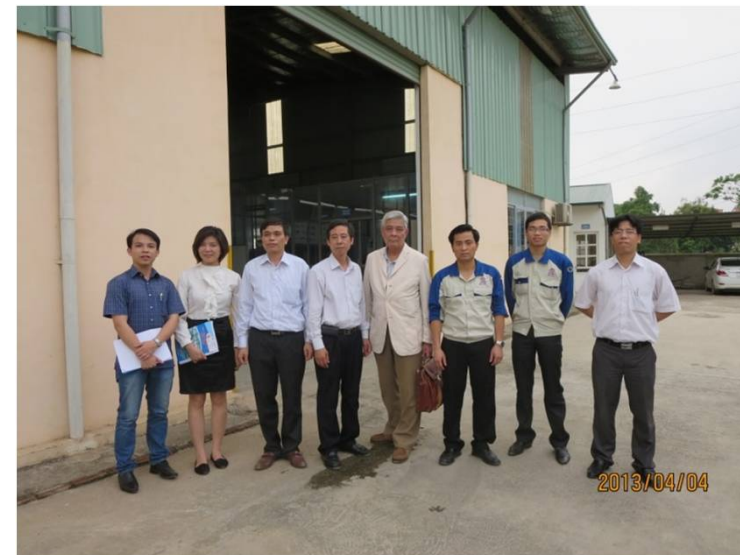
日系企業に勤務したり、取引がある企業は揉まれているが、実力は付けている。  
 技能・技術はなんとかなるが、規律ある組織運営;諸管理技術の視点や方法;中期の事業運営計画の必要性を認識。**有償で良いから日本での研修を強く望んでいた。**



納品スケジュールの掲示板  
 (日本企業名が多く記載されていた)

### 5-3.公的機関の一步前進

議論は議論として、長期計画を策定して実践的に着実に行動することの重要性を認識している。(2015年のTPPや2020年までの産業立国は現実味をもって迫っている)  
資本不足は大きく華僑;韓国勢などの進出が急。



訪問した企業の皆さんと共に